

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101040		
法人名	岡山医療生活協同組合		
事業所名	グループホーム福浜 1階		
所在地	岡山市南区福富中2丁目8-10		
自己評価作成日	令和 3 年 9 月 16 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101040-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101040-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 3 年 9 月 21 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人内に医療機関があり、連携しやすい環境にある。情報共有、連携強化のため毎月病院、訪問看護、薬局との連携カンファレンスも行っている。主治医が法人内医療機関という安心感からの入居申し込みも多い。コロナ感染症対応のため、外部との交流できないため、ユニット内の行事に力を入れている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ひときわ目立つリビングルームの柿の木、たわわに実り、今にも熟し落ちそうな実を利用者が手を差し伸べている姿が目飛び込んできた。実りの秋をイメージした職員の制作で、外出ができない利用者に少しでも秋を堪能して欲しいという気持ちからである。職員は、毎年四季折々の風情を見る利用者の笑顔の満足感と姿を知っているだけに、年々、企画力と工作技術が増し、管理者も安心して任せている。そんな職員のやる気が、利用者のための組織の实りとして息づいている。管理者も「自分は何もしていない」と言っているが、落ち着いて全体を把握しながら、利用者目線から物事を判断し、謙虚に利用者職員を見守って進化させている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1年毎に事業所目標を理念に基づき作成している。それを基に個々で目標を作成している。面談時に進捗状況の確認も実施している。	理念を各事務所内だけではなく、新たに共有フロアに掲示し、毎月のカンファレンスで共有している。理念共有は、ISO9001に則り、それを社員一人一人の振り返りシートに目標を記して個々の心に落とし込み、年2回(中間・期末)の面談と、日々の業務で共有の理解を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策の為行えていない。	地域の方からの差し入れや、敷地の外に一步出れば、馴染みの地域の方と挨拶を交わしたり、天気の話で盛り上がりつつ、コロナ前と相変わらず、付き合いが続いている。毎年、スイカの行商に来られる方と、今年の出来の良さなども語ったりして世間話も含めて付き合いが長く続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染対策の為行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職場会議で意見を共有し、サービス向上に努めている。	対面形式で隔月に開催を続けており、組合員や町内会やグループ事業所の責任者等が主たる参加を続けている。お出かけコースやドライブコースの提案や柔軟な面会方法などの間から、自粛生活だからこそ身近に目線に向けて、実現できる様に取り組んで実践している。	コロナ禍が治まって新たな取組ができるように、新メンバー(第3者目線)を招集する工夫を期待したいです。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護を受けている方が複数おられ、福祉事務所との協力関係がある。	ホーム長が窓口となり、行政とは、いつでも報告・連絡・相談できる関係を築いている。生活保護受給者の方もおられるので、福祉事務所の協力関係も根強い。社会福祉協議会からは、利用者の金銭管理を支援しに毎月来られ、日常の問題点も相談できる関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄錠の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束廃止委員会を開催し、職場会議で共有し、学習も実施している。現在身体拘束の対象者は折られない。スピーチロックに注意して職員間で注意しあっている。	身体拘束はしていない。3ヶ月に1回、拘束廃止委員会を年間計画として実施し、スピーチロックや拘束に繋がりがかねない事とは何かという事を、対面やon-lineの研修と日々のスタッフ同士の言葉かけをし、自ら気付き、その姿を周囲の職員に与え、今まで以上に、拘束の無いケアの質を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待予防委員会を開催し、日常的に注意している。職場での学習会も実施している。スピーチロックに注意して声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が制度について学べていないが、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より説明を重ね、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情窓口を管理者、介護事業部とし、ご意見箱の設置をしている。日常的にも電話や面会時に意見を伺っている。	家族からの意見は、電話で受ける事が多い。年1回、満足度調査によって、電話や面会時に家族に対して報告をしている。また、面会時に、気さくな言葉掛けから積極的に声をかけ、なんでも話せる時間をじっくりと設け、出た意見や要望は職場会議に取り上げ、実践に役立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職場会議、面談時、日常的にも聞き、運営に反映させている。	職員の家族の愚痴を聞くことで、仕事に活かしている。また、何でも話しやすい職員がいて、草むしりの中で、積極的に意見や相互関係も聞くことが出来ている。傍を楽にする働く気持ちが、大いにあり、譲り合う心が生まれて、意見や提案を聞く機会として、年2回個人面談も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働組合もあり、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアの実際と力量を把握し、研修を受ける機会を確保している。コロナ過でも参加できる研修には参加出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に学習を行うなど交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に困り事や不安を伺い、安心して生活できるよう配慮したり、入居当初は特に頻りに声掛けもしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困り事や要望等、入居前の面接時から伺い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の必要としている支援を見極め、計画作成を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守りや共に行う生活リハビリを通じ、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の絆を大切にしながら、共にご本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームの行事等で地域のボランティアの方にお世話になっており、それぞれの馴染みの方の訪問や電話もある。	馴染みの方と葉書のやり取りや電話の取次ぎをしている。また、訪問理美容の方や別ユニットと行事を共有して利用者同士話が深まりやすい関係ができています。ホーム内の馴染みの場があり、プランターの花の水やりもその一つ。提携医や看護師も会いたい願望の馴染みの関係となっている。	身近なところに馴染みの人や場所を形成してはいかがでしょうか？例として、お手紙のやり取りが多いので、外出できない分、施設内ポストなどの工作はいかがでしょう？
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に利用者同士の関係を把握した上で、行事や活動を通じ関わり合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで退居後の支援はないが、必要あれば支援できるよう努める。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、家族に相談したりしながら、本人本位に検討するようにしている。	意向を表現しにくい方には、普段の様子や表情から判断し、食べ物の要望かなと思ったときは、電話などで家族と好き嫌いや健康を相談しながら意向に近づけ、機嫌の悪い方には、じっくりと時間を設け、原因を注意深く探る事で解決方法を導いていく心配りをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接や家族、担当ケアマネージャーに経過把握の協力をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に担当職員を付け、モニタリングやアセスメントを実施し、全体で情報収集し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心とし、情報収集後やケアカンファレンスで話し合い、計画作成している。	ケアプランは入居時と半年後として、状況の変化に応じてモニタリングとアセスメントを柔軟に期間を短くし、行っている。家族の意見を元に、担当職員がとりまとめ、医療スタッフを交えて情報収集をし、ケアカンファレンスで職員と共有し合っプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング結果を共有し、カンファレンスで情報共有後に計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に対応し、柔軟な対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接しているデイサービスや地域のボランティアの方々の協力のもと、施設内で孤立しないよう楽しむ事を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を大切に、受診が継続できるよう支援している。	施設の看護師が窓口となっている。かかりつけ医は選んで頂けるが、殆どの方が施設の協力医に転医される。協力医が月2回、訪問看護が週1回来訪しており、24時間365日適切な医療が提供されている。受診は、原則、職員が対応する。歯科は、各利用者の必要度に合わせて訪問される。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時には報告や相談を行い、月に1回連携カンファレンスを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医、相談室との情報交換を行っており、必要時にはカンファレンスを開いてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所に出来る事を十分に説明し、関係者とも話し合いながら支援に取り組んでいる。	看取りを行っている。その時の症状によって、出来ない事は家族にはっきりと伝え、その人が安心出来る様に専門機関を勧め便宜を図っている。主治医から看取りの診断が下りた時は、家族と主治医とホーム長で話し合い、職員は、いつでも心構える体制をとるためにも、年1回の勉強会を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業部学習会や職場学習会を利用し、定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練を実施している。職員やボランティアが近所に住んでいるので心強い。	年2回(春・秋)、火災と水害を日中の想定の中、隣接施設と合同で、利用者や地域のボランティアも参加し、見守りを受けて実施している。年2回の開催の内、年1回は、今年も消防署の立ち合いの予定。備蓄は、2階の倉庫に保管し、期限内で交換している。ごはん・カンパン・水等を3日間用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失礼のない言葉掛けや対応を心掛け、職員間でも声を掛け合い注意している。	呼称は、苗字に『さん』を付けている。入居時のアセスメントを通じて、その人固有の関わり方を把握し、入居時から、利用者の様子を見ながら、じっくり段階的に関わりを深めて信頼関係の構築に努めている。その人がその人らしくプライバシーを守れるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で聞き取り、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、希望にそった支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪など自分で出来る事はしてもらいその人らしさを大切に支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう可能な方と一緒に準備、片付けをしている。	ケータリングを個々の咀嚼力等に合わせて加工し、松茸ご飯などの季節食や季節の果物を提供している。週に一度のおやつ作りは楽しみの一つで、近所の方の野菜の差し入れを味噌汁に彩っている事もより親しみを増している。片付けや机拭きを共に行い、珈琲やお茶を入れて頂くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の変更や水分摂取量の確保をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、運動がてらに『ちょっと寄って行かない?』というような言葉がけで、トイレへ誘導している。出来る事は出来るだけ、ご本人優位に心がけ、失敗された時も『大丈夫よ』『着替えるよ』『安心してね』と言葉をかけ、パット等の使い方も個々のレベルに合わせている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴していただけるようご希望を聞きながら、体調や気分により支援をしている。	週3日提供し、近所の方が差し入れてくれる柚子を、毎年、お風呂に使い、入浴者に季節感を味わって頂いている。入浴後か就寝前に毎日、全員にローションをしっかり塗り込むアフターケアを続けている。入浴を嫌がる方には、職員の様々な言葉掛けで、入浴を導く対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じ休息したり、安心して気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、服薬の支援、症状の変化の確認に努めている。気になる事があれば薬剤師にも相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かした役割、楽しみ事、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって戸外に出掛けられるよう支援に努めている。	天気の良い日には、ソファを外に出して、日向ぼっこや花の水やりをして、利用者の気持ちを安定させている。近所の散歩はコロナ前から日常的に行い、菜園での野菜の収穫で、散歩の第一歩ということで、踏み出していただく呼びかけをし、収穫の楽しみと新鮮な空気に包まれるような外出支援につながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族とも相談の上、希望や力に応じてお金を所持したり、使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人の電話の取り次ぎや手紙のやりとりの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不快にならないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れ、過ごしやすいよう工夫している。	廊下は四季の移ろいを、フロアは今の季節を再現し、耳には、季節を感じるBGMを流し、フロアの制作物のリアルな柿を「今、実も取って食べたい」と利用者が思うほど。毎月、スタッフが当番制で利用者と制作物を掲示し、ありがとうが飛び交うほどの演出に長けている。職員も企画で盛り上がり、意欲が高く、管理者も安堵しているフロアである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で独りになれたり、利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れたものを活かし、居心地よく過ごせるよう工夫している。	本人が好きな人の写真や物に囲まれて、昔を思い出し、若かれし頃にふけている気持ちになって、その場に浸っている居室が伺われる。居室は、ナチュラルな色使いとこだわった素材で利用者を見守っていた。家族が衣類の収納にイラストシールを貼り、立体的なひまわりの表札も見事。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつできるだけ自立した生活が送れるようにしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101040		
法人名	岡山医療生活協同組合		
事業所名	グループホーム福浜 2階		
所在地	岡山市南区福富中2丁目8-10		
自己評価作成日	令和 3 年 9 月 16 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101040-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101040-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 3 年 9 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人内に医療機関があり、連携しやすい環境にある。情報共有、連携強化のため毎月病院、訪問看護、薬局との連携カンファレンスも行っている。主治医が法人内医療機関という安心感からの入居申し込みも多い。コロナ感染症対応のため、外部との交流できないため、ユニット内の行事に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ひときわ目立つリビングルームの柿の木、たわわに実り、今にも熟し落ちそうな実を利用者が手を差し伸べている姿が目飛び込んできた。実りの秋をイメージした職員の制作で、外出ができない利用者に少しでも秋を堪能して欲しいという気持ちからである。職員は、毎年四季折々の風情を見る利用者の笑顔の満足感と姿を知っているだけに、年々、企画力と工作技術が増し、管理者も安心して任せている。そんな職員のやる気が、利用者のための組織の实りとして息づいている。管理者も「自分は何もしていない」と言っているが、落ち着いて全体を把握しながら、利用者目線から物事を判断し、謙虚に利用者と職員を見守って進化させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1年毎に事業所目標を理念に基づき作成している。それを基に個々で目標を作成している。面談時に進捗状況の確認も実施している。	理念を各事務所内だけではなく、新たに共有フロアに掲示し、毎月のカンファレンスで共有している。理念共有は、ISO9001に則り、それを社員一人一人の振り返りシートに目標を記して個々の心に落とし込み、年2回(中間・期末)の面談と、日々の業務で共有の理解を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症対策のため、交流は行えていない。	地域の方からの差し入れや、敷地の外に一步出れば、馴染みの地域の方と挨拶を交わしたり、天気の話で盛り上がりたりして、コロナ前と相変わらず、付き合いが続いている。毎年、スイカの行商に來られる方と、今年の出来の良さなども語ったりして世間話も含めて付き合いが長く続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染症対策のため、交流は行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職場会議で意見を共有し、サービス向上に努めている。	対面形式で隔月に開催を続けており、組合員や町内会やグループ事業所の責任者等が主たる参加を続けている。お出かけコースやドライブコースの提案や柔軟な面会方法などの間から、自粛生活だからこそ身近に目線に向けて、実現できる様に取り組んで実践している。	コロナ禍が治まって新たな取組ができるように、新メンバー(第3者目線)を招集する工夫を期待したいです。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護を受けている方が複数おられ、福祉事務所との協力関係がある。	ホーム長が窓口となり、行政とは、いつでも報告・連絡・相談できる関係を築いている。生活保護受給者の方もおられるので、福祉事務所の協力関係も根強い。社会福祉協議会からは、利用者の金銭管理を支援しに毎月來られ、日常の問題点も相談できる関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束廃止委員会を開催し、職場会議で共有し、学習も実施している。現在身体拘束の対象者はおられない。スピーチロックについても職員同士で注意しやすい環境ができるよう話し合いを行っている。	身体拘束はしていない。3ヶ月に1回、拘束廃止委員会を年間計画として実施し、スピーチロックや拘束に繋がりがかねない事とは何かという事を、対面やon-lineの研修と日々のスタッフ同士の言葉かけをし、自ら気付き、その姿を周囲の職員に与え、今まで以上に、拘束の無いケアの質を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待予防委員会を開催し、日常的に注意している。職場での学習会も実施している。声掛けでの拘束についても話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が制度について学べていないが、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より説明を重ね、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情窓口を管理者、介護事業部とし、ご意見箱の設置をしている。家族に電話をする際に家族から意見等ないか伺っている。	家族からの意見は、電話で受ける事が多い。年1回、満足度調査によって、電話や面会時に家族に対して報告をしている。また、面会時に、気さくな言葉掛けから積極的に声をかけ、なんでも話せる時間をじっくりと設け、出た意見や要望は職場会議に取り上げ、実践に役立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職場会議、面談時、日常的にも聞き、運営に反映させている。	職員の家族の愚痴を聞くことで、仕事に活かしている。また、何でも話しやすい職員がいて、草むしりの中で、積極的に意見や相互関係も聞くことが出来ている。傍を楽にする働く気持ち、大いにあり、譲り合う心が生まれて、意見や提案を聞く機会として、年2回個人面談も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働組合もあり、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアの実際と力量を把握し、コロナ過でも可能な限り研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染症対策のため、交流は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に困り事や不安を伺い、安心して生活できるよう配慮したり、入居当初は特に頻りに声掛けもしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困り事や要望等、入居前の面接時から伺い、関係づくりに勤めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の必要としている支援を見極め、計画作成を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守りや共に行う生活リハビリを通じ、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の絆を大切にしながら、共にご本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症対策のため、面会は行っていないが、電話がかかってきたり、ハガキを出したり交流が行えるように努めている。	馴染みの方と葉書のやり取りや電話の取次ぎをしている。また、訪問理美容の方や別ユニットと行事を共有して利用者同士話が深まりやすい関係ができています。ホーム内の馴染みの場があり、プランターの花の水やりもその一つ。提携医や看護師も会いたい願望の馴染みの関係となっている。	身近なところに馴染みの人や場所を形成してはいかがでしょうか？例として、お手紙のやり取りが多いので、外出できない分、施設内ポストなどの工作はいかがでしょう？
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に利用者同士の関係を把握した上で、行事や活動を通じ関わり合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで退居後の支援はないが、必要あれば支援できるよう努める。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望、意向の把握に努めている。	意向を表現しにくい方には、普段の様子や表情から判断し、食べ物の要望かなと思ったときは、電話などで家族と好き嫌いや健康を相談しながら意向に近づけ、機嫌の悪い方には、じっくりと時間を設け、原因を注意深く探る事で解決方法を導いていく心配りをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接や家族、担当ケアマネージャーに経過把握の協力をしていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に担当職員を付け、モニタリングやアセスメントを実施し、全体で情報収集し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心とし、情報収集後やケアカンファレンスで話し合い、計画作成している。	ケアプランは入居時と半年後として、状況の変化に応じてモニタリングとアセスメントを柔軟に期間を短くし、行っている。家族の意見を元に、担当職員がとりまとめ、医療スタッフを交えて情報収集をし、ケアカンファレンスで職員と共有し合っプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング結果を共有し、カンファレンスで情報共有後に計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に対応し、柔軟な対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症対策のため、交流は行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を大切に、受診が継続できるよう支援している。	施設の看護師が窓口となっている。かかりつけ医は選んで頂けるが、殆どの方が施設の協力医に転医される。協力医が月2回、訪問看護が週1回来訪しており、24時間365日適切な医療が提供されている。受診は、原則、職員が対応する。歯科は、各利用者の必要度に合わせて訪問される。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時には報告や相談を行い、2ヶ月に1回連携カンファレンスを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医、相談室との情報交換を行っており、必要時にはカンファレンスを開いてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所に出来る事を十分に説明し、関係者とも話し合いながら支援に取り組んでいる。	看取りを行っている。その時の症状によって、出来ない事は家族にはっきりと伝え、その人が安心出来る様に専門機関を勧め便宜を図っている。主治医から看取りの診断が下りた時は、家族と主治医とホーム長で話し合い、職員は、いつでも心構える体制をとるためにも、年1回の勉強会を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場学習会を利用し、定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練を実施している。職員が近所に住んでいるので心強い。	年2回(春・秋)、火災と水害を日中の想定の中、隣接施設と合同で、利用者や地域のボランティアも参加し、見守りを受けて実施している。年2回の開催の内、年1回は、今年も消防署の立ち合いの予定。備蓄は、2階の倉庫に保管し、期限内で交換している。ごはん・カンパン・水等を3日間用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用していただいている事を常に考え、失礼のない言葉掛けや対応を心掛けている。	呼称は、苗字に『さん』を付けている。入居時のアセスメントを通じて、その人固有の関わり方を把握し、入居時から、利用者の様子を見ながら、じっくり段階的に関わりを深めて信頼関係の構築に努めている。その人がその人らしくプライバシーを守れるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で聞き取り、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、希望にそった支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう可能な方と一緒に準備、片付けをしている。ユニットごとに月1回は手作りの昼食作りやおやつ作りを行っている。	ケータリングを個々の咀嚼力等に合わせて加工し、松茸ご飯などの季節食や季節の果物を提供している。週に一度のおやつ作りは楽しみの一つで、近所の方の野菜の差し入れを味噌汁に彩っている事もより親しみを増している。片付けや机拭きを共に行い、珈琲やお茶を入れて頂くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要時には食事形態の変更や水分摂取量が維持できるよう状態に応じた支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、運動がてらに『ちょっと寄って行かない?』というような言葉がけで、トイレへ誘導している。出来る事は出来るだけ、ご本人優位に心がけ、失敗された時も『大丈夫よ』『着替えるよ』『安心してね』と言葉をかけ、パット等の使い方も個々のレベルに合わせている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴していただけるようご希望を聞きながら、体調や気分により支援をしている。	週3日提供し、近所の方が差し入れしてくれる柚子を、毎年、お風呂に使い、入浴者に季節感を味わって頂いている。入浴後か就寝前に毎日、全員にローションをしっかり塗り込むアフターケアを続けている。入浴を嫌がる方には、職員の様々な言葉掛けで、入浴を導く対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じ休息したり、安心して気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、服薬の支援、症状の変化の確認に努めている。気になる事があれば薬剤師にも相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かした役割、楽しみ事、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症対応で外出は行っていないが、接触のない散歩などは行っている。日常生活の中で希望を聞きながら、買い物は職員が代行している。	天気の良い日には、ソファを外に出して、日向ぼっこや花の水やりをして、利用者の気持ちを安定させている。近所の散歩はコロナ前から日常的に行い、菜園での野菜の収穫で、散歩の第一歩ということで、踏み出していただく呼びかけをし、収穫の楽しみと新鮮な空気に包まれるような外出支援につながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族とも相談の上、希望や力に応じてお金を所持したり、使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人の電話の取り次ぎや手紙のやりとりの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不快にならないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れ、過ごしやすいよう工夫している。	廊下は四季の移ろいを、フロアは今の季節を再現し、耳には、季節を感じるBGMを流し、フロアの制作物のリアルな柿を「今、実も取って食べたい」と利用者が思うほど。毎月、スタッフが当番制で利用者と制作物を掲示し、ありがとうが飛び交うほどの演出に長けている。職員も企画で盛り上がり、意欲が高く、管理者も安堵しているフロアである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で独りになれたり、利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が好きな人の写真や物に囲まれて、昔を思い出し、若かれし頃にふけている気持ちになって、その場に浸っている居室が伺われる。居室は、ナチュラルな色使いとこだわった素材で利用者を見守っていた。家族が衣類の収納にイラストシールを貼り、立体的なひまわりの表札も見事。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつできるだけ自立した生活が送れるようにしている。		